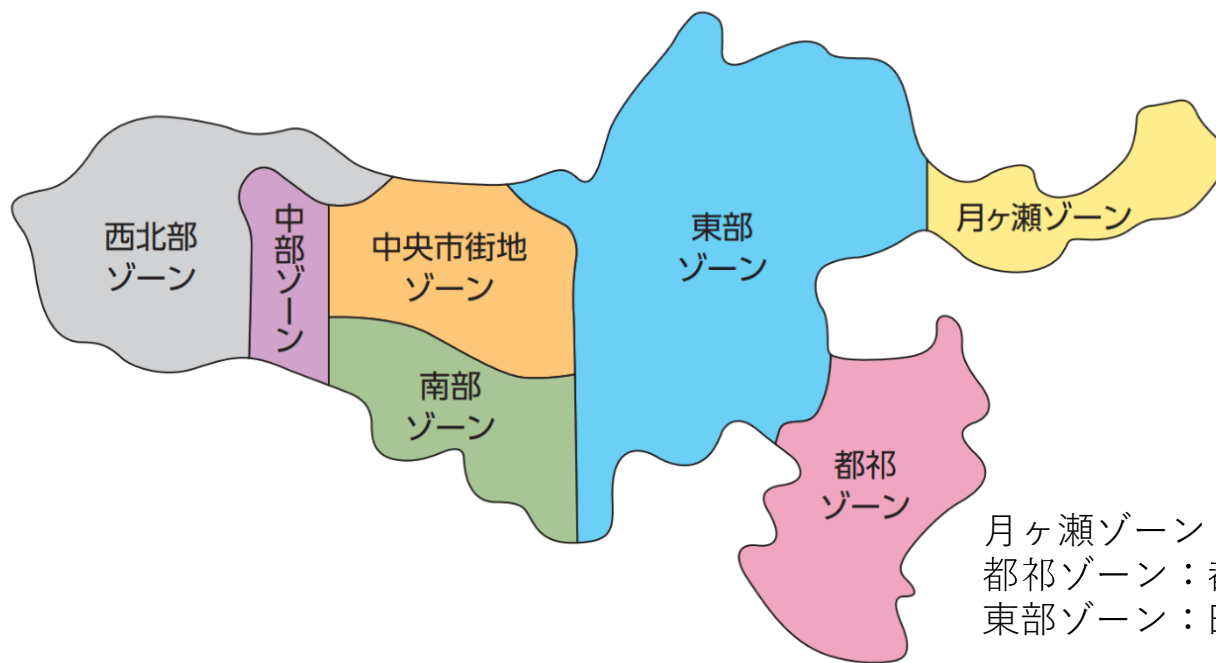


概況

- 本計画の対象となる地域は、春日山から東側に位置する地域であり、標高200～600メートルのなだらかな山地が広がる大和高原の北部に位置し、7つの地区（月ヶ瀬、都祁、田原、柳生、大柳生、東里、狭川）で構成されています。
- 世界遺産「古都奈良の文化財」の後背地として、緑豊かな森林が広がる自然と、その恵みを受け長い歴史に育まれた生活空間が広がっており、自然豊かで懐かしい風景は日本の原風景ともいべきもので、古都奈良の深い歴史と文化を持つ地域です。茶畑や棚田などの美しく豊かな自然、安全で新鮮な農産物、奥深い歴史と伝統・文化、ゆったりとした時間の流れと温かい人情など、都市部では失われつつある多様な魅力と価値にあふれています。



①奈良市中心部からの好アクセス

毎年1,400万人もの来訪者があり、35万人が暮らす奈良市の中心部から、車でわずか30分から1時間（約35km圏内）の範囲に、東部地域の主要拠点が集まっています。

②多様な観光コンテンツの可能性

剣聖の里「柳生」や梅の名所「月ヶ瀬」、歴史のロマン漂う「田原」、西日本最大級の道の駅の「都祁」など、東部地域にはそれぞれ個性豊かな魅力が揃っています。豊かな自然の中でのキャンプや体験型観光、特産品の直売など、市街地から少し足を伸ばすだけで「心豊かな非日常」を味わえる可能性に満ちています。

③地域のまちづくり団体、主体の存在

地域を元気にしようとする住民の力が確実に根付きつつあります。現在、自動運転技術やデジタル地域通貨（地域ポイント）などの先端的なサービスと、昔ながらの共助（互助）の仕組みを組み合わせ、新しい暮らしの形が形成され始めています。

④企業誘致のポテンシャル

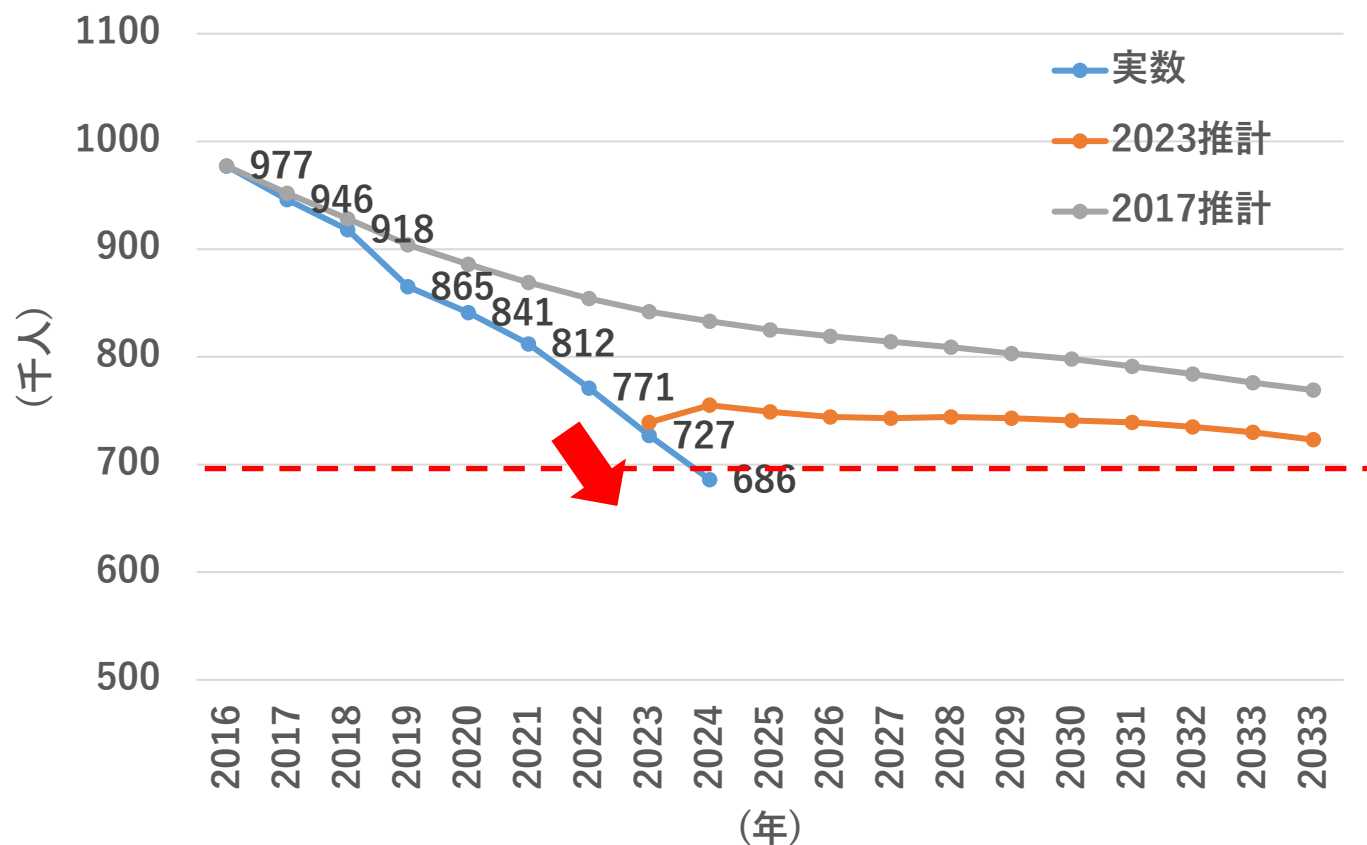
都祁ゾーンは、名阪国道で大阪・名古屋方面と結ばれ、道の駅「針T・R・S（針テラス）」があるなど、利便性の高い地域です。この強みを活かし、インターチェンジ付近への企業誘致を進め、働く場所を増やすことで、地域産業の活性化を図ります。

加速する生産年齢の減少

日本における日本人の出生数が70万人を下回る時期は、2017年の推計では2043年、2023年の推計では2038年となっていました。推計より相当早く出生数は減少を続け、2024年の出生数が68.6万人になるという深刻な事態に直面。同時に、2025年には第一次ベビーブーム世代（団塊の世代）が全員75歳以上となり、人手不足と現役世代の負担増がかつてないスピードで進行しています。

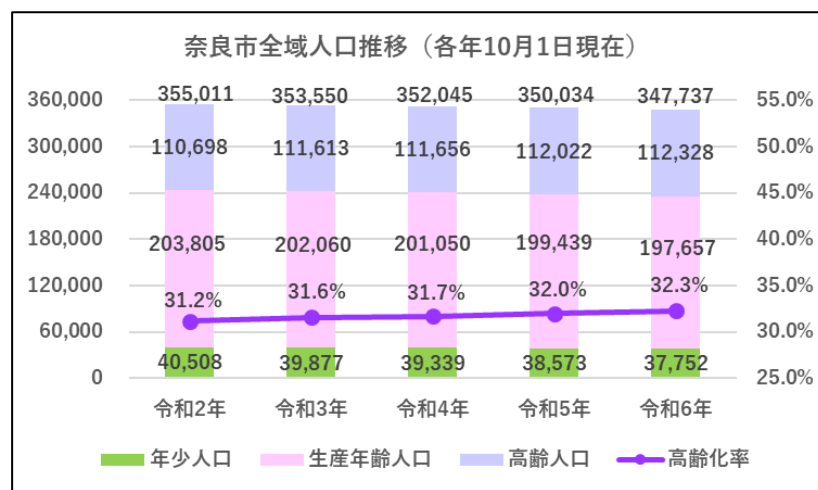
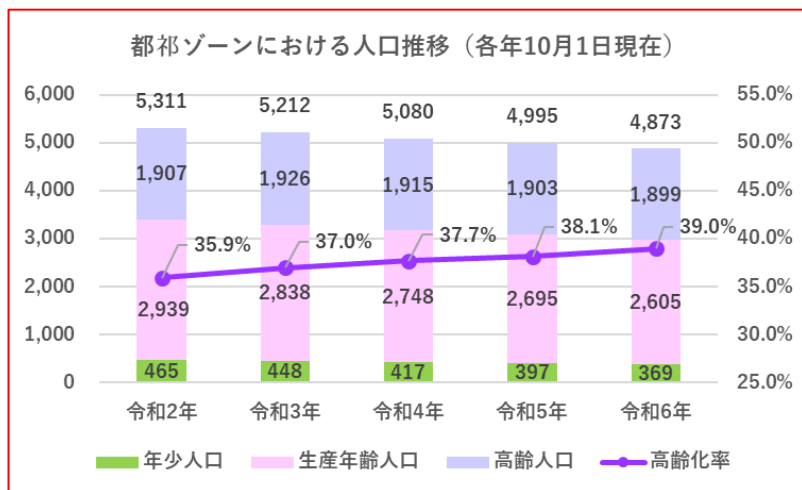
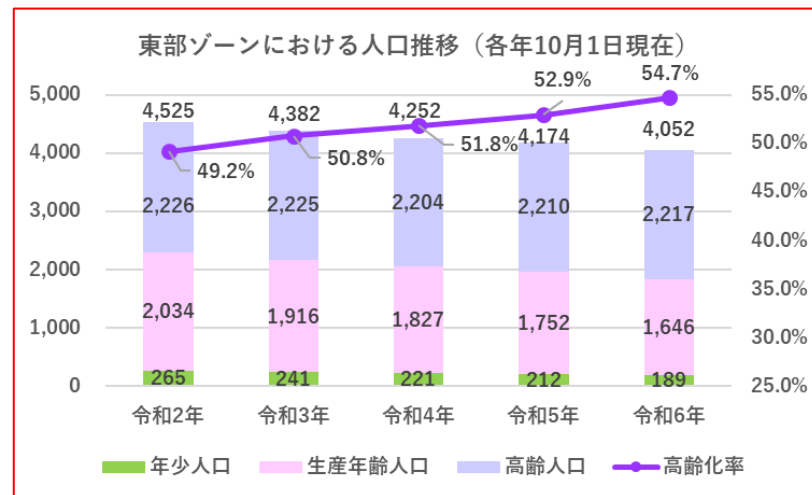
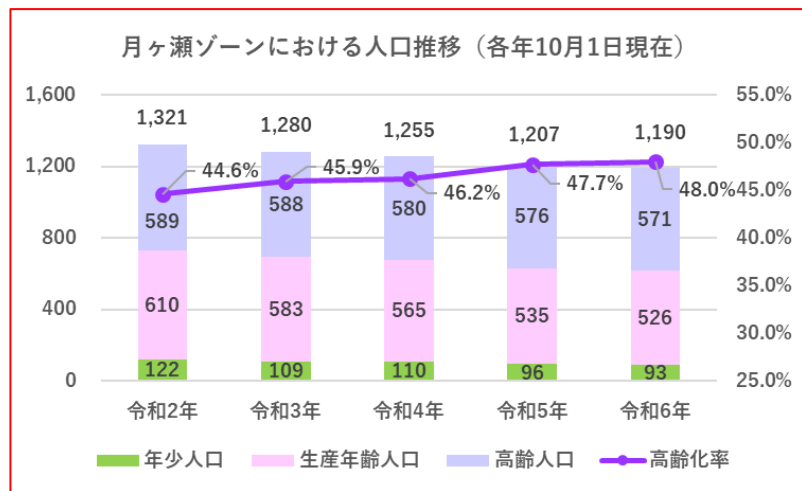
実数：2024年人口動態統計(確定数) 厚生労働省
推計：日本の将来推計人口 社人研

出生数の動向（推計と実績）



奈良市の人口減少・高齢化

東部地域は人口減少や高齢化の進む中山間地域です。東部地域は、市域の約56%の面積を有するものの、約3%の人口となっています。高齢化率は、奈良市全体の約32%と比較して、東部地域全体では約46%となり、高齢化が進行している地域です。



【共通】

- ◆ 災害：土砂災害や集落の孤立リスク、建物の老朽化・狭隘施設への対応
- ◆ 社会構造：人口減少・高齢化、空き家の増加、コミュニティの希薄化
- ◆ 産業：農林業の衰退、獣害の深刻化、担い手不足による耕作放棄地の増加
- ◆ 生活インフラ：公共交通の脆弱さ、公共施設の老朽化、商店の廃業
- ◆ 活力：児童数減少による集団学習の減少と、それに伴う地域活力の低下

【月ヶ瀬ゾーン】

- ◆ 観梅期以外の集客力と観光従事者の高齢化
- ◆ 茶価の不安定化、後継者不足、機械の大型化に伴う条件不利茶園の荒廃

【都祁ゾーン】

- ◆ 「道の駅 針T・R・S（針テラス）」の老朽化
- ◆ 名阪国道沿いエリアにおける産業用地の不足

【東部ゾーン】

- ◆ 柳生等の歴史的資源を生かした観光コンテンツの充実余地
- ◆ 「市街化調整区域」の指定による、地域活性化に向けた課題

計画策定の背景

- 東部地域は、豊かな山々や田畑に囲まれた美しい地域です。その一方で、若者が減り、お年寄りが増えるスピードが市街地よりも速くなっています。その結果、『移動の手段がなく困る』『田畑や山の世話をする人が足りない』といった、日々の暮らしに直結する課題が深刻になっています。
- こうした厳しい現状があるからこそ、東部地域が先頭に立って課題に取り組み、将来のさらなる変化に備えることが重要です。今から対策を講じることで、次世代に自信を持って引き継げる、活力ある東部を目指します。
- 今回策定する東部振興計画は、令和7年度で終わる新市建設計画を、さらに未来へつなげるための役割もあります。まずは令和8年度からすぐに取り掛かるべきことを、地域の皆さんの意見をもとに準備しています。
- 令和9年度からの本格的な実施に向けて、地域の皆さんや民間の会社、行政の各部署が手を取り合い、内容をさらに磨いて、より暮らしに役立つ計画に仕上げていきます。
- 本計画は、市の交通、空き家対策、農業振興などの各分野の計画と連携しながら進めていきます。地域の現状に合わせた対策を一つひとつ形にすることで、住民の皆さんの暮らしを支え、次世代まで続く活力ある東部地域を共に創っていくことを目指します。

新市建設計画（令和7年度まで）①

- 合併からの計画を引き継ぎ、月ヶ瀬と都祁、それぞれの特性を活かしたまちづくりを進めています。
- 二つの地域が手を取り合い、さらに奈良市全体の計画とも足並みをそろえることで、東部地域ならではの豊かさを伸ばしていく方向性をまとめています。

月ヶ瀬ゾーンの位置づけ

- 1) 豊かな自然との共生
- 2) 農業による地域の活力向上
- 3) 地域の魅力を活かした交流



月ヶ瀬梅溪



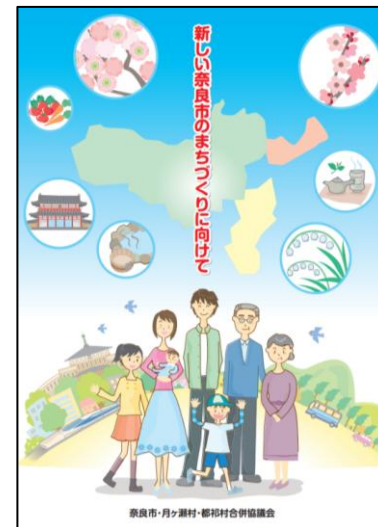
三陵墓古墳群史跡公園（都祁）

都祁ゾーンの位置づけ

- 1) 企業誘致による「働く場」の確保
- 2) ひと・もの・情報が交流する拠点づくり
- 3) 作る・加工する・売るをひとまとめにした「強い農業」の育成

まちづくりの方向性

- I 人や文化を大切に（人権・教育・文化）
- II 健やかに暮らせる（福祉）
- III 安全で心地よい環境を守る（環境・防災）
- IV 地元の仕事を元気にする（産業育成）
- V 効率的な行政運営（行政運営）



新市建設計画（令和7年度まで）②

- 平成17年に1市2村（奈良市・月ヶ瀬村・都祁村）が合併した当初は、人口はゆるやかに減っていくと予想されていましたが。しかし実際には、全国的な少子高齢化の影響もあり、予想を上回る速さで人口が減少しています。
- たとえば令和7年の実績では、市全体で約2万3千人、月ヶ瀬・都祁エリアでも以下のとおり、当初の想定より少ない人数となっています。

1市2村計	推計	370.3千人	→	実績	347.2千人
月ヶ瀬村	推計	1.4千人	→	実績	1.2千人
都祁村	推計	5.7千人	→	実績	4.8千人
- そのため、これまでのまちづくりの基本は大切にしつつも、今の時代に合わせた「新しい知恵や工夫」を取り入れた計画へと進化させていく必要があります。

「新市建設計画より」 図表 人口の動向（単位:千人）

		実績値				推計値			
		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和7年 (平成37年)
1市2村計	人口	335.5	357.2	368.0	374.9	380.4	382.7	381.8	370.3
	増減率		6.5%	3.0%	1.9%	1.5%	0.6%	-0.2%	-2.3%
奈良市	人口	327.7	349.3	359.2	366.2	371.9	374.5	373.9	363.2
	増減率		6.6%	2.8%	1.9%	1.6%	0.7%	-0.2%	-2.2%
月ヶ瀬村	人口	2.1	2.1	2.0	2.0	1.9	1.8	1.7	1.4
	増減率		-2.4%	-3.3%	-2.6%	-4.2%	-5.3%	-5.7%	-8.8%
都祁村	人口	5.6	5.7	6.8	6.8	6.6	6.4	6.2	5.7
	増減率		2.0%	18.5%	-0.1%	-2.2%	-3.1%	-3.7%	-5.1%
奈良県	人口	1,305	1,375	1,431	1,443	1,451	1,448	1,433	1,370
	増減率		5.4%	4.0%	0.8%	0.6%	-0.2%	-1.0%	-2.6%
全国	人口	121,049	123,611	125,570	126,926	127,708	127,473	126,266	121,136
	増減率		2.1%	1.6%	1.1%	0.6%	-0.2%	-0.9%	-2.4%

(注) 増減率は5年前に対する変化率。

(資料) 実績値：総務省「国勢調査報告」。推計値・参考値は以下のとおり。

1市2村：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」（平成14年3月推計）を参考に推計

奈良県：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」（平成14年3月推計）

全国：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成14年1月推計）中位推計

将来ビジョン

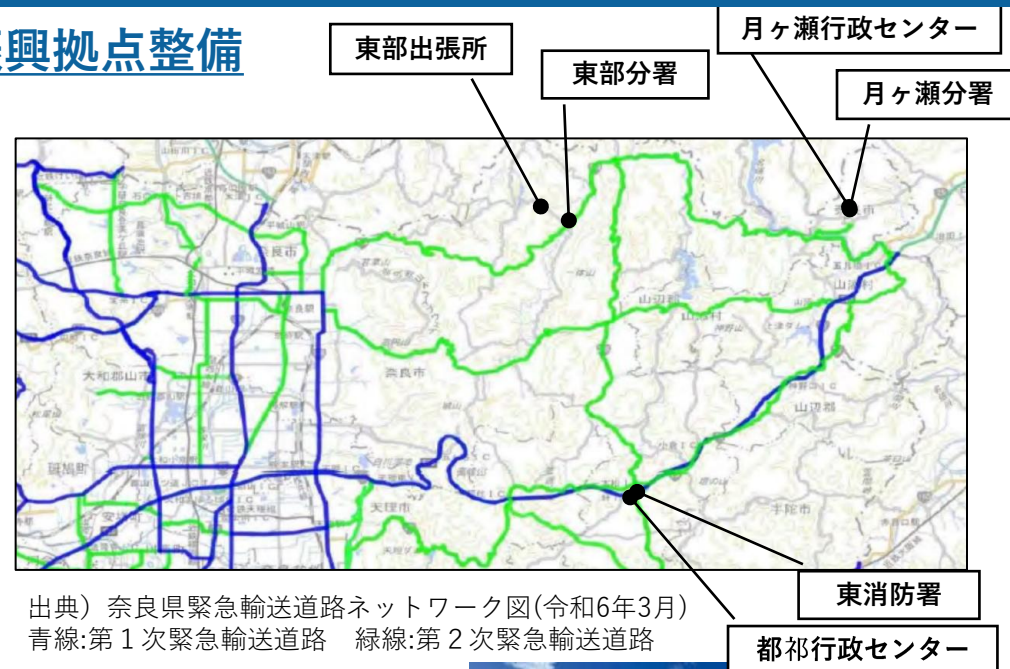
「手を取り合い、自然とともに歩む。
100年後まで笑顔が続く、
新しい東部地域の暮らしを」

- ◆ 世代を超えて笑顔がつながる、健やかで安心なまち
- ◆ 守り継いできた自然を磨き、食と観光で活力を生み出す、健やかなまち
- ◆ 豊かな自然と人の和を活かし、訪れる人と地域が共に輝くまち

継続的・先行的に、検討・実施する施策

平常時も災害時も役立つ多機能型地域振興拠点整備

- 東部出張所は、これまでも、窓口業務に加えて、東部地域の豊かな自然や文化を活かした地域振興施策に重点的に取り組む役割を担ってきました。
- また、本出張所は、災害時には東部地域の司令塔の役割も担っています。拠点建物の老朽化も進んでおり、他の行政センターに比べ狭隘であることから、地域の意見や他の公共施設との連携、地理的状况など考慮のうえ、移転建て替えの検討が必要です。



▶東部出張所等の機能拡充

- ◆ 東部地域（田原・柳生・大柳生・東里・狹川）の災害時の拠点として、また、地域住民の主体的な活動を支援する拠点として他の公共施設との連携も考慮しながら、東部出張所の機能を拡充します。
- ◆ 現在、施設は狭隘かつ土砂災害警戒区域にかかっていることから、施設の移転・建替えを行います。
- ◆ 令和8年度は基本計画・基本設計の策定、建設予定地の調査等を行います。



施設名	築年数 (経過年数)	延床面積
月ヶ瀬行政センター	昭和51年	1,497㎡
都祁行政センター	平成22年	1,592.07㎡
東部出張所	平成5年 昭和58年	211㎡ 153㎡

この計画の主演は、行政でも、コンサルタントでもありません。

今、この東部地域で暮らし、この景色を愛している『あなた』です。

一人ひとりの『ちょっとした手助け』や『新しいアイデア』が、

10年後の東部を、日本中が憧れる場所に変えていきます。

さあ、一緒にはじめましょう。私たちの誇り、東部の未来づくりを。